



Dai I NAIKA News

平成 26 年 3 月 10 日

三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報誌【第 12 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

第一内科設立70周年について



消化器内科学
(第一内科)
白木克哉

本年を持ちまして第一内科設立 70 年目にあたります。勿論、開設当時のことは私は全く存じておりませんので少し歴史をご説明させていただきます。初代教授は橋本正之先生で 1944 年に就任されております。したがって 2014 年が設立 70 年目になるわけです。二代教授は遠山豪先生（1984 年—1955 年）、三代教授は高崎浩先生（1955 年—1973 年）、四代教授は竹澤英郎先生（1973 年—1987 年）、五代教授は中野赳先生（1987 年—2006 年）と続き、現在伊藤正明教授に引き継がれています。この間に多数の先生方があらゆる分野でご活躍され、現在同門会会員数は 400 名を超えており、内科ではあらゆる分野で専門診療されておられますし、地域医療、公衆衛生や産業医などに多数の人材を輩出しています。

昨年に三重大学内科開講 70 周年祝賀会が開催されましたが、第一内科開講 70 周年祝賀会が本年 1 月 20 日に第一内科同門会総会の日に都ホテルにて開催されました。第一内科の礎を築かれた先生方から、思い出の話や第一内科の理念や伝統に関しまして貴重なお話を拝聴することができました。先人の先生方の苦労や努力の積み重ねが第一内科の伝

統を築き、現在の第一内科の基盤になっていることを改めて認識いたしました。また、第一内科に脈々と流れる臨床を非常に大切にすることや後輩にその伝統を引き継ぐことの大切さを身にしみて実感することができました。現在、第一内科の理念になっております「真理の探究と人材の育成」は、これらの伝統を継承するまさに的を得た第一内科の指針になっていると思います。

現在第一内科は「総合内科を基盤にした専門医療」「地域に貢献する医療」にも伊藤正明教授を先頭に第一内科医局員全員で力を合わせ取り組んでおります。これらの地道な粘り強い活動が、この変革する医療や社会保障の時代を乗り越え、さらなる素晴らしい伝統を築き上げていくことと信じています。



三重県CCUネットワーク 1年を振り返って

2012 年 4 月より進めてきました急性心筋梗塞診療における 2 つの大きなプロジェクト『地域医療再生計画事業』と『厚生労働省科学研究』が、本年 3 月をもって終了いたします。

三重県地域医療再生計画の 1 事業として三重大学病院内に設置された CCU ネットワーク支援センターが中心的役割を担って、「心電図伝送システム整備事業」および「急性心筋梗塞回復期リハビリテーション設備整備事業」を進めるとともに、厚生労働省の科学研究として三重県内の急性心筋梗塞患者のデータを収集する「三重 ACS レジストリー」を立ち上げました。インターネットによる WEB 登録システムを構築し、2013 年 1 月より三重県下の 14 施設において急性冠症候群患者の登録を開始しました。関連病院の先生方のご協力により 1 年間で 644 例が登録され、様々な角度からの解析によって三重県の急性心筋梗塞診療の現状が明らかになってきています。

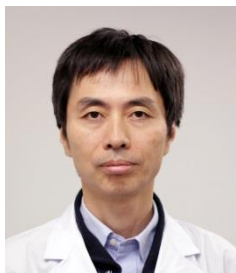


循環器内科
谷川高士

「心電図伝送システム整備事業」では津市をモデル地区に設定し、昨年 11 月には津消防の救急車 12 台すべてに 12 誘導心電図計が搭載されました。本誌【第 10 号】において藤岡正紀先生よりご報告いただきましたように、心疾患プロトコールに合致する症例の心電図を大学病院へ伝送することで、ST 上昇型心筋梗塞（STEMI）の早期診断と病院到着から再灌流療法までの時間（Door to Balloon time）の短縮効果を検証しています。2013 年 4 月より本格的な運用を開始し、本年 2 月までの 11 ヶ月で 276 件の 12 誘導心電図が大学病院に伝送され、35 件が STEMI と診断されました。

2 つのプロジェクトにより、大学病院を中心とした関連施設とのネットワーク構築が進み、三重県内の急性心筋梗塞診療に関するデータ収集と診療実態の分析に大きな役割を果たしました。今後、さらに過疎地域における急性心筋梗塞の救急医療体制について検討し、地域間較差の是正に向けた取り組みを進めていく予定です。

抗血栓療法(ワーファリン投与)中の脳出血合併例への対応



集中治療室
藤岡正紀

心房細動患者に対する抗血栓療法は標準的治療となりつつあります。近年は新しい抗凝固薬であるダビガトラン等も発売されましたが、使用後の出血例の報告も散見され長年にわたり使用されてきたワーファリンが見直されています。ワーファリンはCHADS Scoreを参考に導入例を選定し、そのコントロール指標であるPT-INRに準じて投与量を調節されます。

しかし、ワーファリンは一般に「出血に敏感で梗塞に鈍感」と揶揄される薬剤であり、投与中の内因性の脳出血は0.3-1.2%/年と報告されています。また不慮の転倒や交通事故等の外傷時の脳出血発症時の対応にもしばしば苦慮します。ワーファリン投与中の頭蓋内出血性病変発症例には、速やかにPT-INRを1.35以下に正常化することが

推奨されています。従来ビタミンK(ケイツー)や新鮮凍血漿(FFP)が投与されておりましたが、発現までの時間が長く十分な効果が得られていないのが現状です。

「脳卒中治療のガイドライン」や「循環器疾患における抗凝固・抗血小板治療に関するガイドライン」では、FFPよりも乾燥人血液凝固第IX因子複合体(PPSB-HT)の使用が推奨されています。PPSB-HTは血友病Bの治療薬ですが、第IX因子以外にワーファリンで抑制される第II、VII、X因子を含んでおり、投与後PT-INRは急速に是正されます。現在、三重大学医学部附属病院救急救命センターでは、外傷時の頭蓋内出血性病変発症例に対してPPSB-HT投与により速やかに(投与後、15分程度)PT-INR<1.35と是正され、臨床経過上良好な結果が得られています。

ただし、ワーファリン投与中の出血性合併症への使用は保険適応外である点に御注意ください。

Pickup



平本拓也

2013年10月より救急科に勤務している平本と申します。初期研修後より第一内科に入局、腎臓内科に携わっておりました。

大学病院のICUに入ってくる患者様には外傷性疾患も多く、高エネルギー外傷やⅢ度熱傷といった重症患者も搬送されてきます。

ICUではそれぞれの内科・外科より多くの医師が参加し、一丸となって治療にあたっております。

これまで内科で培った能力を役立てられるよう、また新たに救急科・他科の知識や技術を習得し実践できるよう、頑張っていく所存です。よろしくお願いします。

お知らせ

- 3月16日(土)三重県慢性腎臓病対策 県民公開講座
「あなたの腎臓を守る」平成26年3月16日(日)開場:1200
鈴鹿医療科学大学白子キャンパス講堂

詳細は第一内科ホームページに掲載されています。

- 第一内科外来担当がリニューアルされました。(3月)

		月	火	水	木	金
総合	初診	山田	後藤	岡本	白木	中森
	再診	荻原 山本		石川 田辺	中村	
循環器	初診	山田 増田 荻原	藤井 後藤	岡本 田辺	中村 熊谷 谷村	谷川 中森
	再診	谷川、藤本 太田/土肥 PM外来 藤田	杉浦 (英)	谷口	澤井 松田	山田 藤井 土肥
腎臓	初診	藤本	休診	石川	村田	藤本
	再診	石川	休診	休診	休診	村田
消化器・肝臓	初診	山本			白木	
	再診	白木 杉本(和)		山本	杉本(和)	

注) 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で紹介いただく場合は、可能な限り火曜日の不整脈外来(担当: 藤井)に御紹介をよろしくお願い申し上げます。
PM外来=ペースメーカー外来(1,2,3週のみ)

- 第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/intmed1/>

- ドクターたちのひとりごとブログ「第一内科 Café」

<http://ameblo.jp/miedailnai/>

- 三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1 FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ<http://www.hosp.mie-u.ac.jp>の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を御記入の上、FAX059-231-5541に送信してください。15分以内に折り返しFAXで診療予約の回答をさせていただきます。

2 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来: 059-231-5146 病棟: 059-231-5101

FAX: 059-231-5518 研究棟: 059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科HPまで。
naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp

